

令和4年度 事業成果報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1. 地雷処理支援事業成果実績

カンボジア政府機関のCMAC(カンボジア地雷対策センター)と共同して事業を実施し、村人参加型の地雷探知チーム5名により、バットアンバン州のカムリエン郡、プノンプラ郡、サンパウルーン郡、及びパイリン州内の8村20箇所の地雷原を探知し、約93ヘクタール(累計約386ヘクタール)の農地を安全にするとともに、活動地域の村人からの情報による回収活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。() 数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷121個(932個) 対戦車地雷3個(217個)
- (2) 処理した不発弾 : 141個(1,727個)
- (3) 処理した面積 : 937,702平方メートル(3,862,283平方メートル)

2. 地域復興支援事業成果実績

(1) 相互の友好交流を促進する事業

愛媛県とカンボジアのバットアンバン州は、2020年1月「友好交流・協力活動の構築に関する覚書」を締結し、今期1月には愛媛県から救急自動車3台、消防自動車1台、井関農機株式会社様から農業用トラクター1台、株式会社エリサジャパン様から農業用トラクター1台他農業用機材、KS西日本有限会社様からKSメルト製品、国際ソロプチミスト今治様、新居田物産株式会社様からタオル、宇和島市の小学校から楽器、コープえひめ様から文房具などがバットアンバン州に寄贈された。

(2) インフラ整備を支援する事業

ア 井戸掘削

井戸11基(No. 65~No. 75)完成。

イ 車いす

愛媛県の東温市社会福祉協議会の「海渡る車いす実行委員会」様よりご寄贈いただいた24台の車いすが今期4月にバットアンバン州に到着した。

ウ ゴミゼロ運動

IMCCD日本語学校の子供達が、宿舍のゴミを拾う活動を毎日実施している。

(3) 農業の発展を支援する事業

村人から買い付けるジャスミン米やマンゴー等を、厳正な品質のチェックを行い購入することにより、村人に農産物の品質向上を工夫させている。また、肥料はほぼタイから購入しているが、化学肥料を減らし有機肥料を使用するように指導、無農薬栽培を奨励している。

(4) 地場産業の発展を支援する事業

クマエ蒸留会社(社長ソックミエン氏)を支援してカンボジアの地場産業の発展を目指している。きっかけは、村人が、キャッサバ芋、米、とうもろこし、サトウキビ、マンゴーなどを植えて隣国タイや中国、ベトナム等に売っていたが、大変安く買いたたかれていた。そこでこれら農産物をそのまま売るのではなく、加工して付加価値を付け、価格変動にも耐えられるよう取り組みを始めた。商品は、蒸留酒である焼酎やラム酒、マンゴーやバナナなどのドライフルーツ、レモングラスやシトロネラを精製して作るアロマオイル、お茶製品など。特に注目されているのが、コメの国際審査会で第1位になったジャスミン米で造る焼酎。今年1月ソックミエン社長と高山はフランス・リヨンで開催されたシラ国際外食産業見本市に5種類のお酒を出展した。ブースを訪れたヨーロッパなど多くの皆さんや、特にフランスで著名なシェフやソムリエの方々に、「これは凄く美味しい」という絶賛の感想を頂いた。ソムリエの一人に「5月22日にパリで行われる KuraMaster という国際審査会に是非出展し、審査を受けてみて下さい」と推薦されたので、それにトライすることにした。6月12日がその審査発表。また、6月21日～23日まで東京ビッグサイトで行われる展示会にも出展。更には、クラウドファンディングでご寄付頂いた方にこれらのお酒を返礼品として送り知っていただくようにした。地場産業が発展するためには、農産物の加工品をカンボジア国内だけでなく、国際的な競争力を付けて「カンボジアには素晴らしい商品がある」と知っていただくことが重要。カンボジアの製品が世界で評価されれば、カンボジアの方々の産業に対する意識が変わり、自立復興という最終目標を目指すことにつながる。

(5) 日本企業の誘致を支援する事業

現在は、2008年に1社、2011年に2社、2014年に1社を活動地のカムリエン郡に企業誘致して活動したが、2019年に1社がプノンペンの経済特区に移転し、現在は、3社がカムリエン郡地域で操業している。今後は、上記のように農業の発展とかみ合わせるための加工産業の会社を日本から誘致したいと考えている。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

今期は、小学校1校を建設した。これまで、活動地に17の幼稚園、小学校、中学校、高校の校舎を寄贈している。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 現在愛媛県に来ているカンボジア技能実習生の側面的な支援をしている。

イ IMCCD日本語学校

2020年からのコロナウイルスの影響により、カンボジア政府の指導統制を受け、約2年間休校していたが、前期1月から再開した。現在では、小学生を中心に20名ほどの子供達が夕方5時過ぎから6時半くらいの時間に、日本語の勉強に来ている。先生は、この日本語学校を卒業した2期生、3期生の2名が教えている。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

日本での講演活動は、2020年のコロナ禍の以前の時よりも、3倍くらいに増えた。直接、講演会場に行き行うやり方と、Zoomでの遠隔講演がある。コロナの影響でZoomでの講演が多くなっていたが、今期は、直接現地に行き講演を行うことが多くなった。写真パネルイベントは、兵庫支部で実施した。小グループでのミニ講演のような形で定期的に行う啓発活動も多くなった。

イ 日本人のタサエン地区など訪問見学

今期は、徐々に訪問者が来られるようになったが、まだ15名ほどである。

(9) 広報に関する事業

ア IMCCD創設10周年記念誌「平和の種になりたい」を500部増刷した。

イ 表彰

今期はなし。

著書 『地雷処理という仕事』－筑摩書房－初版8000部 重版2刷り8000部
3刷り8000部（今期）

『平和の種になりたい－カンボジアの復興に奔走した12年の記録－』2,000部
10周年記念誌『平和の種になりたい－ご支援いただいた皆様に感謝－』
初版2000部 増刷500部（今期）

動画 『平和の種になりたい』－IMCCD－